

・青森県教育委員会教育長賞

かんぴょう巻きをお父さんへ

横内小学校（青森市）

五年 平井朱莉

かんぴょうのいいにおいが家の中に広がりました。

「おすしやさんよりおいしくてお父さんが言ってくれたらうれしいなあ。」

私のお父さんは単身ふにんで仙台に住んでいます。お仕事の関係で、あまり会うことはできません。でも、今日は私の運動会。

お父さんが私を応援するために、仙台から帰ってきてくれます。私は、

「自分ががんばっているとところをお父さんに見てもらいたい。」と思いました。でも、このようにも思いました。

「お父さんは仙台から来るだけでもつかれているし、歩いて学校まで来ると、もっともつつかれるだろうな。私もお父さんを応援したいな。」

そこで、おばあちゃんと相談して、お父さんが大好きなかんぴょう巻きを作りました。

私はおいしく食べてもらいたいと思って、米をとぐところからおばあちゃんといっしょにやりました。ごはんがたきあがりしました。真っ黒なのに、真っ白なご飯をのせました。そして、そのご飯の上に茶色いかんぴょうをのせました。すると、かんぴょう

のにおいとりのこうばしいにおいが混ざり合って、いいにおいが広がりました。

「おまじないしてみる。」

と、おばあちゃんが提案しました。

「かんぴょう巻きに話しかけると、もっとおいしくなるよ。」

「やる。やる。」

私とおばあちゃんは顔を見合わせて笑いました。私は、こう言いました。

「おいしくなあれ。おいしくなあれ。おいしく食べてもらってね。うれしく食べてもらってね。お父さんにパワーをあげてね。元気になあれ。おいしくなあれ。」

「長いおまじないだこと。」

おばあちゃんは笑いました。でも、私はお父さんにどうしてもパワーをあげたくてたくさんかんぴょう巻きに話しかけました。

お父さんが一口食べました。

「うわあ、おいしい。」

とにっこり笑顔で言いました。そして、ぱくぱくぱく、あつという間に全部食べてくれました。

「ああ。おいしかった。元気になった。」

と、お父さんが言いました。私は、

「おまじない、かけてよかった。」

と言いました。お父さんは、

「おまじないって何。」

と、不思議そうな顔をしていましたが、私はだまっています。お父さんを応援するつもりで作ったかんぴょう巻きでしたが、お父さんの笑顔で、私の方がパワーをたくさんもらったかんぴょう巻きでした。